特定非営利活動法人
福山市身体障害者団体連合会

第５２号

福山市身連通信

２０２３（R．５）年１０月

発行者　ＮＰＯ法人　福山市身体障害者団体連合会
編集者　福山市身連　広報部市身連通信編集委員会
連絡先　電話（転送）　０８４－９６１－４７３３

目　次

福山市相談員研修会　１
相談員協議会　総会開催
障害者招待ボウリング大会　２
聴覚障害にハンドブック
スマートフォン研修会　３
マイナンバーカードに紐付けは　４
災害避難研修会いったん中止
令和五年後半の活動予定　５

障がい者相談員　令和五年度

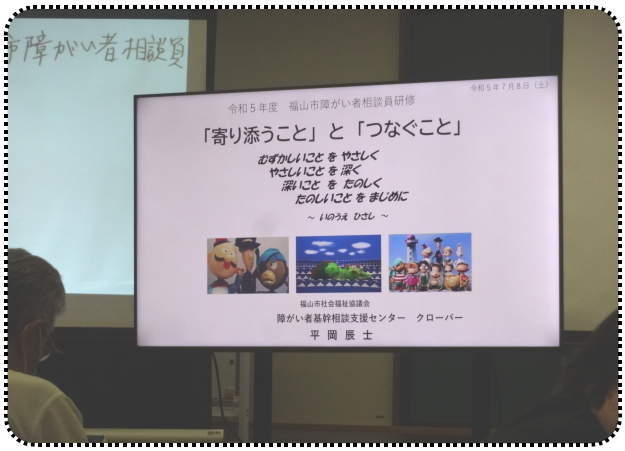
福山市研修会・協議会総会

日時　令和五年七月八日（土）
会場　すこやかセンター健康教育室

令和五年度の障がい者相談員に対しての福山市による研修会が梅雨の最中の七月八日の午後から開催されました。当日本当に雨の日でしたが相談員三七名の内二七名ほどが返信の通り出席して行われました。

今年度の研修は令和二年に県身連の研修会で福山会場での講師をされた福山相談支援センターの平岡辰士氏による「寄り添うこととつなぐこと」と題した前回と同じテーマで、相談者に対する接し方についての研修で、前回と同じく資料をプロジェクターで映しての講習でしたが、相手と意思を十分に通じ合って決して押し付けでない対応に徹するべきと、例によって平岡氏は時間は三時間ほしいと今回も時間が足りないと言いながらの研修でした。しかし予定の時間が来て終了し、ここで小休憩を取りその後の相談事例報告は今年度視覚協会の水本裕子相談員が、視覚の場合毎週支援センターで電話相談の担当を決めて対応されていて、そこでの相談事例や本人の得意分野であるＩＴ関係おもにスマホの便利アプリの使い方の指導などを行っている事を報告されました。

最後に福山市から昨年度の相談員からの報告件数等の集計を報告されましたが、年度別に見ると三年前からそれまでのほぼ半数の相談件数になってここ三年それが続いていることの原因は、やはりコロナの蔓延で対面での対話や集会の自粛により相談を受けることの難しさがあったための様です。



福山市障がい者相談員協議会総会

市の研修会が終了し、続いて相談員協議会の総会を休憩なしで開催のため、協議会の役員は前列に移動し、準備が出来ると即総会に入りました。

この総会のため事務局から案内と出欠報告のハガキを送っていて、その返信では二七名出席、一〇名が欠席ですが、そのうち六名は委任状の記載がありましたがほかは無記入でした。

当日ほぼ予定通りの出席で半数は十分超えていて総会は成立となりました。事務局がそれを報告して菅原会長の開会挨拶で始まりました。

今回議長を事務局から急遽知的の西山千秋相談員にお願いし承諾されましたので、議長席についてもらい、事務局に議案の提出を指示し、園生事務次長が前年度事業報告をして、大村会計が決算報告、その監査を坪山・種本両監査が報告して審議となりましたが問題なく承認されました。続いて今年度の計画案、予算案が同じく事務局から提案され、団体名の書き方について発言はありましたが活動については問題なく拍手で承認され、今年度は役員改選の年で六月の理事会で検討された役員候補が提案されて、問題なく承認されました。これで総会を終了、事務局が身体の研修が秋に宿泊である事をお知らせして解散となりました。

福山東ライオンズクラブ　第四十回

障がい者招待ボウリング大会

日時　二〇二三年七月九日（日）
会場　キャッスルボウル福山

昨年から復活した福山東ライオンズクラブの障がい者招待ボウリング大会が今年も七月九日、キャッスルボウル福山で開催し招待すると案内がありました。

昨年からはろうあ協会にも法人団体として別途案内があるようになり、連合会と行っても会場にエレベーターがなく参加しにくい車いす協会やろうあ協会の参加がなく障がい別では偏った参加者になるのはいたし方がありません。

今年は連合会には三〇名の招待と指定され、介助の必要な人は自分で用意してもらい、介助者も招待者数に入れますと言われていますので、実際に投げる人は二〇何人でもすぐ定員に達したようです。

当日はやはり梅雨の最中なので雨天でしたが屋内で問題なく開催されました。例年選挙のある年は開会式に市長、県議候補の挨拶がありますが今年は市長なども代理の出席で祝辞の代読をされました。今回の参加者は昨年に比べて少なかった様です。

開会式でいつも通り注意点などの説明があって、ニゲームトータルピンで競技開始となり、参加者はそれぞれ自分なりのスタイルでボウリングを楽しませてもらいました。競技を終えてその場で表彰式が行われ各賞が発表され、呼ばれた受賞者は嬉しそうに賞品を受け取っていました。

その後は昨年と同じくキャッスルボウルには食事をする会場がありませんので、それぞれ弁当と今年は何時ものフルーツではなく記念の参加賞をいただいて散会となりました。

今年閉会式での謝辞はろうあ協会が担当して述べました。

厚生労働省がハンドブック作成
生まれた子に聴覚障害があったとき

赤ちゃんを授かったとき誰でも丈夫で元気な子でありますようにと願いますが、新生児聴覚検査を受けて精密検査が必要ですとされた時などに、親となった人にどの様に育てていくか、受けられる支援はどの様なものがあるかの情報を知ってもらうために厚労省はハンドブックを作成し、都道府県に配布したりホームページで内容を公開し始めました。

先天性難聴は千人に一ないし二人程度あるとされています。しかしその対策については十分な情報がわからず家族で悩んだり支援についても分からないことが多いためその対策に作成され、親となった人が読むことを想定した内容になっていて、子供に対して「表情や視線、身振りやサイン全体を使ってコミュニケーションを取る」ようにアドバイスしている。就学等将来についても情報を盛り込んで配布していくようです。

福山市身障連合会

再度　スマートフォン研修会

時　令和五年八月一日と四日
所　参画センターセミナー室

福山市身連は丁度二年前に広島から講師に来ていただいてスマホの講習会をして会員が便利に使える様にと学習をしましたが、スマートフォンやタブレットの機能はまだまだたくさんあって使いきれずにいますので、改めてスマホに障害者のためにある機能や使えると便利なアプリについて勉強しようと再度研修会を企画しました。

このような障害者の研修は広島のＩＴサポートセンターから無料で教えに来てもらえるので県身連からなど連絡を取って日程を決めて、先ず視覚障害者が使えると便利と言われるアプリについての研修を計画し募集した所何名かなら説明が伝わって出来るかなというところ一〇名近くの応募者があり八月一日に開催と決まりました。

ほかの障害者には別に八月四日に開催としてこちらはラインでのグループ会議とかミライオーＤを入れて身障手帳をスマホに入れて証明に使う事が出来る様にする研修を予定して募集しこちらは十何名かの応募者がありました。

これらの研修にはＷｉ－Ｆｉが使える会場をということで、それが出来る参画センターのセミナールームでの開催となりました。

一日の視覚障害者向けの研修では広島からの講師の人とボランティアのアシスタントでアプリの入れ方、使い方の研修でしたが、説明を言葉だけで伝えて、人数も多く何人もの対応になりそれぞれが発言されるとなかなか分かりにくかった様です。画面を目視で確認できる場合に比べるとマンツーマンでないと難しいと思われます。

四日の研修には会員一六名が参加申し込みをしていて、ほかにサポートの人、通訳ボランティアとかで満席近い参加者で冷房が効いているのかなという状態でした。参加者は会場に入って研修が始まる前から、ここのＷｉ－Ｆｉはどうなっているか聞いてそれをセットすることからやることになりました。

一時の開始時間ぎりぎりに菅原理事長と根本事務局長がどこかほかの会議から参画センターに来て、事務局長が司会をして理事長の開催挨拶で開始となりました。

紹介された広島からの講師の人が、今日の予定としてラインのグループ作りから始めましょうとなり、参加者はほとんどラインはすでに使っていて入り方は説明いりませんでしたので、近くの席の人同士でグループを作りラインをつないでお互いでグループとなりました。事前の話ではグループでビデオ通話をやってみたいと言っていましたが、Ｗｉ－Ｆｉでグループ通話がよくわからずそこまでは行きませんでした。

次に障害者手帳をスマホに入れて美術館入館等に証明に使える様にミライオーＤを入れて、それで自分の手帳を読み込みますが、アプリを入れるのは参加者みんな出来たようで、それで手帳を読み込むには色々注意書きがあってページごとに読み込み鮮明に写っていることが大事で、申請後三営業日以後に確認される様です。

なかなかすっきりと「出来た！」とは行きませんでした。

マイナンバー登録
障害者情報との関連は

日本でも全国民に番号を付けるマイナンバー制度が決まって何年も立ちましたが、その利便性とかのメリットが特にあるのかという疑問と、それにより政府などから個人情報を管理されるのではというデメリットを気にしてなかなか普及せず、政府はカードを作れば褒美をあげると最大二万ポイントを付けて勧誘しその効果で約七割の普及率になった様です。

しかしナンバーカードに入れた情報が間違っていたり他人の情報だったり問題が山ほどあって信用できるのかという事態が続き、嫌気がさしてカードを返上する人が何人もでて、担当大臣は責任を感じて給料の一部を返しますと言っています。岸田総理も内閣の信用を取り戻そうと自ら使って大変便利ですとパフォーマンスをして見せています。

カードが出来たらこれを保険証として使える様に紐付けばポイントが着きますと誘いこれを目当てにする人が増えたようですが、これも色々問題が起きています。

普通に個人が保険証を紐付けた人に特に問題はないようですが、会社ごとにやったときは抜け落ちた人が何パーセントあるなどと報道されていたり、特に障害者に取っては、保険証を紐付けても障害等級が高い人は重度障害者と証明されてお医者にかかった時窓口支払いの支援があって一回二〇〇円で済みますがマイナカードで受け付けてもらうと保険証は認知してもらえますが、重度障害は関係ありませんと普通に一割とか二割を支払う事になります。

これについて福山市に問い合わせましたが、市はその予定は全くありませんとの事でした。

このところマイナンバーの情報特にミスが多発と新聞に何回も載せてあるので確認してみると、保険証、年金等のほかに住民税、児童手当、介護保険等と障害者手帳の紐付け状態を調べた結果としてそれぞれの項目で不適切な対応が相当数の自治体であるという事でした。

政府が今マイナンバーの総点検をしていて中間報告を公表したようですが、調べれば調べるだけミスが多くなる状態の様です。

新聞にある障害者手帳について全然情報を知りませんのでネットで何とかたどり着いた所、二年程前に政府が各自治体に対応を促す通達を出していて、対応の遅れている県名を公表している中に広島県もありました。それもいつできるかわかりませんので、ましてや重度障害者証明はマイナンバーに載る事は夢のような話で、マイナカードでＪＲの切符を買うとか、福山城で障害者の証明に使う事が出来るのは長生きをしていないと実現できないかも知れないと思います。

民生児童委員との研修会中止

今年の夏の記録的暑さなど最近は気象の変動が激しくこれまでの常識では予測できない変化で各地で災害が多発しています。

このような災害が起きそうな時障害者は情報の受取とか避難が瞬時に出来ないので支援の要請を出来る様になっていますが、これに対し民生委員側でも障害者が何に困っているのか等実態を知って本当に必要になった時の対応を理解しておくために双方で研修会を開く予定になり、八月二十一日、ローズコムでクローバーが協力し民生委員協議会と障害別の障害者の代表が同席して、コミュニケーションを取る研修会を開く予定としていましたが、会場のローズコムでエアコンんが故障しましたとなって、この日は中止となりました。

この夏だけでも各地で線状降水帯が発生して災害が起きていて、必要な事なので改めて十一月二十七日開催となりました。

連合会令和５年後半（１０月以降）の活動予定

１．第２４回　中・四国ブロック身体障害者相談員研修会
　日程　１０月５日（木）　　場所　愛媛県民文化会館
　＊昨年は広島市で開催され福山から１０名の相談員が参加しましたが
　今年は何時もの様に代表２名（菅原・坪山両相談員）が参加予定

２．福山市ふれあい福祉まつり
　日程　１０月7日（土）　　場所　ポートプラザ中間広場
　＊今年もポートプラザで開催です。今回車いす体験会を行う予定。

３．第61回　広島県身体障害者福祉大会
　日程　10月26日（木）　　場所　東広島市黒瀬生涯学習センター
　＊昨年福山で開催した県大会を今年は黒瀬町で開催、福山からは
　20数名がバスで参加予定。会費５００円＋食事代

４．全国障害者スポーツ大会特別大会　（燃ゆる感動かごしま大会）
　日程　10月２８～30日　　場所　鹿児島県
　＊予定していた年に出来なかった大会をほかの県に譲ってもらって
　鹿児島で開催。広島県身障16名、知的15名などが参加予定。

５．県身連バーベキュー交流会
　日程　１１月７日　　場所　久井町宇根山家族旅行村
　＊参加費１５００円

６．広島県身障相談員・指導者研修会
　日程　11月２９～30日　　場所　呉市グリーンピアせとうち
　＊何年か毎の県身連の宿泊研修（１５，０００円）初日バス往復

７．市身連主催ボウリング大会
　日程　12月3日（日）１３時　　場所　コロナキャットボウル
　＊参加費５００円

８．歳忘れコンサート
　日程　１２月１７日（日）１３時半　　会場　人権センターホール
　＊ロゼッタマンドリーノ　マンドリン演奏＋歌手
　会員に限らず障害者・家族の参加OK

NPO法人　福山市身体障害者団体連合会

http://fukuyamasisinren.sub.jp/

インターネットの検索欄で、上記のアドレスをいれて検索するか、福山市身連の文字を入力して検索して見て下さい。ホームページをご覧いただけます。